

2024年第3回日立名作映画上映会

瀬戸内寂聴

99年生きて思うこと

監督:中村 裕

出演:瀬戸内寂聴

プロデューサー:松浦 敬 阿部 毅 成瀬保則 伊豆田知子
製作:朝日新聞社、KADOKAWA、平成プロジェクト、スローハンド、
クイーンズカンパニー、徳島新聞社、京都新聞、朝日放送テレビ
配給:KADOKAWA 制作:スローハンド 協力:曼陀羅山 寂庵
©2022「瀬戸内寂聴 99年生きて思うこと」製作委員会

大正、昭和、平成、令和と

4つの時代を生きた作家が語る、

「恋」と「革命」その人生。

密着17年一。誰も知らない瀬戸内寂聴の

金言の数々と秘蔵映像。



晩節なんか汚したっていい。
好きに行動すればいいの。



**国民的作家・寂聴さんと
ディレクター“裕さん”。
密着17年。二人の間に
“タブー”はない。**

2022年5月15日で満100歳を迎えるはずであった瀬戸内寂聴に、密着17年間という歳月を撮影し続けた監督・中村裕。2015年にNHKスペシャル「いのち 瀬戸内寂聴 密着500日」(ATP賞ドキュメンタリー部門最優秀賞受賞)のディレクターもつとめた実力派監督だ。17年に及ぶ密着では、日常的に互いに全てを報告し合う、まるで母親、先達、友人、あるいは恋人のような…形容しがたい関係性の二人。長年、寄り添い続けた監督だから描ける“誰も知らない瀬戸内寂聴”の“本音”や“金言”の数々が満載の貴重なドキュメンタリー映画が誕生した。

99年の恋と革命。

その波乱万丈の「生き様」とは一。

寂聴は、死の直前まで月刊誌、新聞の連載をこなす“現役”作家であり、2020年1月まで行っていた、月一の法話には全国から人が押し寄せる「最長寿の国民的アイドル」。駆け落ち、不倫、三角関係など、自らの体験を私小説の形で次々に発表し、世間のバッシングに晒されるも、女流作家として不動の地位を確立。51歳のとき出家し、以来、僧侶、作家の2つの顔を持つ。いつまでも恋心を持って生きる一。女性であるということを忘れず人生を楽しむ一。彼女の“生き様”は、不寛容な空気が充満しつつある現代社会で、人間の生命力とは何かを強く感じさせてくれ、〈いかに生き、老いていけばいいのか〉というヒントともなるはずだ。

生きるということとは、死ぬ日まで自分の可能性をあきらめず、与えられた才能や日々の仕事に努力しつづけることです。

生きることは愛すること。

瀬戸内寂聴
99年生きて思うこと

映画で街を元気に!!

PassMarket



日時/2024年**10月21日(月)** ①10:00~11:35 ②2:00~3:35

会場/**多賀市民会館ホール** ※デジタルチケットは右記の二次元コードで購入できます

入場料金/前売 **1,200円** (当日¥1,400) ※前売券は時間指定券。座席は全席自由席です。

◆**プレイガイド** 多賀市民会館、日立市民会館、日立シビックセンター、ゆうゆう十王Jホール、デジタルチケット

◆電話予約先(予約受付期間9月10日~10月18日)

☎090-1209-1776(青田)、☎029-226-3156(茨城映画センター/平日10時~5時)

●後援/日立市、日立市教育委員会、日立市社会福祉協議会、(公財)日立市民科学文化財団

●主催/映画「瀬戸内寂聴99年生きて思うこと」日立上映実行委員会(青田) 提供/茨城映画センター